

福岡県支部

中心市街地を通じた社会的課題に取り組む「新たな経営体」に関する調査研究

多くの地域で、NPO 法人が街づくり（中心市街地活性化）に取り組んでいる。今年度の調査研究事業では、そのような NPO 法人に対する新たな支援形態を実験的に調査した。

具体的には、独立自営の中小企業診断士や企業内診断士を含むボランティアベースのチーム（プロボノ）を組織して、福岡県筑紫野市で 7 年にわたって街づくりに取り組んでいる NPO 法人ほっと二日市に対して新たな視点を提供するための提言を作成し、発表した。また、それら一連の活動を側面から観察して、街づくりの課題・NPO 法人が抱えている課題・NPO 法人などの新たな経営体に対する新しい支援のあり方としてのプロボノの可能性などを分析した。

報告書では、これら一連の取り組みと調査・分析の内容を、以下のような構成で記述している。

- 【第 1 章】今後予測される人口減少の脅威と、そこから浮かび上がる社会的な課題を考察する。さらに、中心市街地の持つ可能性への期待の高まりや、中心市街地が抱えている現状の課題についても考察する。
- 【第 2 章】中心市街地の活性化に取り組んでいる NPO 法人について考察する。まず、社会的な課題の解決に取り組む組織形態としての NPO 法人の現状や位置付けを整理する。さらに、福岡県筑紫野市では中心市街地の活性化に関する各種施策の推進主体を NPO 法人が担っているため、その経緯・背景・現状と課題についても分析する。
- 【第 3 章】視点を変えて、NPO 法人を支援する側の組織形態について考察する。特に近年注目されている「プロボノ」と呼ばれる組織形態について、その詳しい内容や事例、特有のメリットや期待される成果について考察する。
- 【第 4 章】本調査研究事業が実施した実験的な取り組みについて、その全容を記録したものである。今回は、実際に福岡県の社会人有志によるプロボノを結成し、半年間の演習活動を運営して、福岡県筑紫野市で中心市街地活性化に取り組んでいる NPO 法人ほっと二日市に対する提言（付録に全スライドを添付）を発表した。さらに、プロボノ参加者・NPO 法人ほっと二日市のメンバーの双方にアンケートを実施した。
- 【第 5 章】第 4 章に記録している一連の活動結果やアンケート結果に基づいて、中心市街地活性化に取り組む新たな経営体（NPO 法人）に対するプロボノからの支援について、その有効性や留意点、今後に向けた課題や提言をまとめている。

今回のように、「プロボノを結成し、街づくりなど社会的な課題解決に取り組んでいる新たな経営体と連携する」ことは、参加するすべての人・組織にとって有益な成果をもたらす可能性が高い。その立ち上げや運営には、いくつかの課題や留意点は存在するが、意欲のある運営委員・事務局が推進することによって、ほとんど費用をかけずに活動を展開することが可能である。

一方、多くの市町村で財政基盤が脆弱化する中で、NPO 法人や市民団体などが地域の街づくりなどの社会的課題の解決に取り組むケースはますます増えていくと考えられる。行政による、NPO 法人などへの支援サービスの一環として、プロボノとのマッチングサービスや、情報提供などに踏み込むことができれば、今回のような双方にとって有意義な連携が増えるだろう。

また、中小企業診断士などのフリーランスのコンサルタントや企業内診断士は、プロボノに参加したり、プロボノを立ち上げて運営したりすることで、その知識と能力を新たな分野に活用して自らの自己啓発と人脈形成を進めながら、同時に地域社会に貢献することができるだろう。

本報告書が、そのような後続の取り組みの一助となれば幸いである。